

# 2024年6月報告書

呉 悠

## もくじ

1. はじめに
2. 授業
3. 授業以外
4. いいたいこと

### 1. はじめに

地球上の皆さんこんにちは！アメリカ生活の終わりが見えてきて感傷に浸っているボストン大学の呉です。

いくら最初は孤独でつらくても、粘り強く根気よく続け長く住めば都になるもので、3年春学期は低学年の時に撒いた種が実を結び始めたうれしい期間となりました。

## 2. 授業

せっかくボストンにもあと少ししかいられないので、思い切って背伸びして難しいけれど学べることの多そうな授業をいろいろ取ってみました。元々私は自分の知らない環境に飛び込もうとする時怖くて考えすぎてしまうタイプなのですが、なんかいろいろ乗り越えすぎて考えすぎて逆に肝が据わってきました。ラッキー。

- **Neural Models of Memory Function**

大学院レベルの神経科学の授業を取ってみました。エピソード記憶について研究している教授が、脳が記憶をしている時の神経細胞の変化をあらゆる最新のコンピュータモデルについて講義してくださいました。

分野がニッチすぎて正直授業の9割くらいちんぷんかんぷんでしたが、神経細胞間の情報伝達が意外とシンプルな行列の計算や物理の公式で表せちゃうのが衝撃でしたしめちゃかっこよかったです。

上級レベルの授業の方が少人数で学生の雰囲気も程よくあたたかくて、この事実をもっと早く知っとけばよかったなと思いました。

- **Experimental Psychology: Developmental**

心理学のなんちゃって論文を書く授業です。私のグループは親の離婚と子どもの愛着や恋愛との関係について調べました。

グループ分けの初速をミスって今まで関わって来なかったタイプのガールズと同じグループになり最初はどうなることかと思っていたのですが、なんだかんだ彼女らの生き方から学ぶことが多くて楽しかったです。アメリカの高校生活を疑似体験しているみたいでした。すこし不器用で喧嘩っ早くなってしまうだけで、彼女らも根はいい人なのです。

心理学専攻の中には数学やプログラミングに苦手意識を持っている子が多いので、私がコンピュータサイエンスの授業で培った少しばかりの知識をチームメイトたちに教えていたらめっちゃ感謝されました。

その様子を見ていた教授からTAのオファーをいただけて嬉しかったです。

- Introduction to Cognitive Neuroscience

認知神経科学の授業です。脳の一部を損傷して「とのとの」としか喋れなくなった人のとのとの動画を見たり(Broca's Aphasia)、授業の始めにまだ食べないでねと突然マシュマロを配られて最後まで食べずに我慢できたら追加でマシュマロが貰えたり(衝動をコントロールする力を測るマシュマロ実験)、脳の構造と認知を結びつけた分野についておもしろおかしく話してくださる教授から学びました。

医学生のTAも朝9時からバービー実写版ばりの明るさでfMRIとか脳の機能の測り方についてトークしてくれて、毎週映画を見ているようでした。

- Introduction to Philosophy

ついに哲学をとりました。教授が朝から「君の親が長時間働いているのは君を大学に入れて将来君が長時間働くためなのだろうか？」などと日々鋭い名言で頭を揺さぶってきます。途中全てがくだらなく思えてくることもありましたが、現実から離れて世界を見つめ直すいい機会になりました。疑う・問うことが許される大学という守られた空間だからこそできる学びだなと思います。

オックスフォード哲学専攻のTAはまじでハリポタに出てきそうな方でした。大学院生のストライキで途中から幻の存在になってしまったけれど、ちゃんと働く学生たちにお給料払われるといいな。

- Spark! Data Science for Good

データサイエンスを用いて社会問題解決を試みる実践型の授業です。私のチームは、コロンビアの薬物に関するアメリカへの引き渡しの法制度を研究している博士学生のクライアントのために、スペイン語の裁判文書をウェブから自動で取り出し、分析に必要な情報を抽出したデータベースを作りました。

私以外全員エンジニア志望で最初はついていくのが大変でしたが、優秀なチームメイトに張り付いてコードを書くときの考え方や効率的なコミュニケーションのとり方を盗んだり、英語面でも技術面でも劣っている分ミーティングは無遅刻無欠席で書類をできる限り読み込むようにしていたら(やり方が昭和かもしれませんが)、だんだんとわかる割合や私なりに貢献できる部分が増えてきて嬉しかったです。

自分のレベルにそぐわないと思っても時には怖がらずに飛び込んでみると、自分の思いがけない長所を知れたり他の人から新たな発見ができたりするのだなあと学べたプロジェクトでした。自分にはできないと自己暗示をかけることはやめて、これからも色々挑戦してみたいです。

### 3. 授業以外

- Global House

寮の言語文化コミュニティで、今学期も日本語リーダーをやりました。最後は突飛なことをやりたいと思い、至って真面目にホストクラブのイベントをしました(詳しくはこちら <https://note.com/foryourself/n/n615fcd2f7395>)。

なんと今年のリーダーシップ賞をいただけて嬉しかったです。わざわざ例年と違うことをやり自ら仕事や悩みを増やすことに何の意味があるのだろう、理想を低くして楽をする方が正義なのではないか？と心が折れかけたこともありましたが、自分の信念に従って行動し続けていれば必ずその頑張りを見て応援してくれる人はいるし、何よりも自分自身の世界が広がるのだなと感じました。

グローバルハウスを運営している先生が、家族が近くにいない私たちに「私はあなたたちのボストンでのママだからね、学生は私の子供たちみたいなものだからね」と無償の愛を与え続けてくださって本当に感謝しています。私も彼女のような、粹からはみ出してしまうかもしれない人々のことを常に思いやり、困っている子どもたちに手を差し伸べられる大人になりたいと強く思いました。

- あそび

とにかく相対的にお金がなくて、家庭が裕福な大学の人たちとの金銭感覚のずれを感じては苦しくなってエッセイを書いたりしたのですが、  
<https://note.com/foryourself/n/nea43fce5c11>

お金がない分放課後に友達と川沿いの桜や星を見に行ったり、BU生無料の美術館やオーケストラコンサートに行ったり、親子丼を作って友達に餌付けしたり、洗面台の前で夜中まで語り合ったり、ボストンのうつくしい街並みとかけがえのない友人たちに癒された春学期でした。(ボストンのおすすめスポットはこちら:  
<https://note.com/foryourself/n/n50d23f78e2c3>)

将来の夢は億万長者です。

- 冬休み

年末年始は思いきって日本に帰らず、ボストンで日本人の方が経営しているゲストハウスに泊まらせていただきました。研究者からミュージシャンまで、ボストンに住むすてきな日本の方々不思議な縁を通してお会いできて、世代をまたいでみんな和食を囲んで語れてとても楽しかったです。

私は学期中はやる事が多くて、大学の日本人界限にぜんぜん出役しないことで有名らしいのですが、暇な冬休みを利用してアツイ想いを抱いて渡米してきた色々な人と知り合えて嬉しかったです。いいモチベーションになりました。

#### 4. いいたいこと

- 居場所がないなら自分でつくる

初めてアメリカに来た大学一年生の時、私は根が内向的だし英語もうまく話せないしで正直あまり気の合う友達ができなくて、すごく孤独だったのを今でも覚えています。それでもこの3年間を通して、自分はどのように生きていきたいのかを自分なりに問い続けて、たくさんのことを調べたり試したりした結果が今の私であり、私の周りにいてくれる人たちであり、新しい地に一人で来て生きることができたという自信に繋がっているのだと思います。

人生は蒔いた種のとおりには花が咲くので、大きな花や小さな花、色々な花を育てて、これからも自分なりの人生のお庭をつくっていきたいです。

貴重な機会をくださった財団のみなさま、色々なお花の育て方を教えてくれる家族や先生や友人たち、ここまで読んでくださったあなた、いつも本当にありがとうございます。

いいたいこと・ききたいこと等あれば気軽にどうぞ：[2eyecontact@gmail.com](mailto:2eyecontact@gmail.com)